



国立大学法人  
愛知教育大学



# AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION FINANCIAL REPORT 2023

## CONTENTS

### 大学運営活動レポート

- 01 | 大学運営に係る経費
- 02 | 運営を支える資金

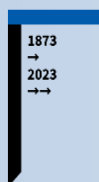
### 令和4年度財務諸表の概要

- 07 | 国立大学法人の決算書類
- 08 | 貸借対照表
- 11 | 損益計算書
- 13 | キャッシュ・フロー計算書
- 14 | 純資産変動計算書
- 14 | 利益の処分に関する書類

### 財務課総務・決算係

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1  
TEL : 0566-26-2136 FAX : 0566-26-2140  
E-Mail : kessan@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

令和5年10月発行



150th  
Anniversary  
of  
foundation

愛知教育大学は、令和5年に本学の前身である「愛知県養成学校（明治6年設立）」から数えて150周年を迎えました。

# 1. 大学運営活動レポート

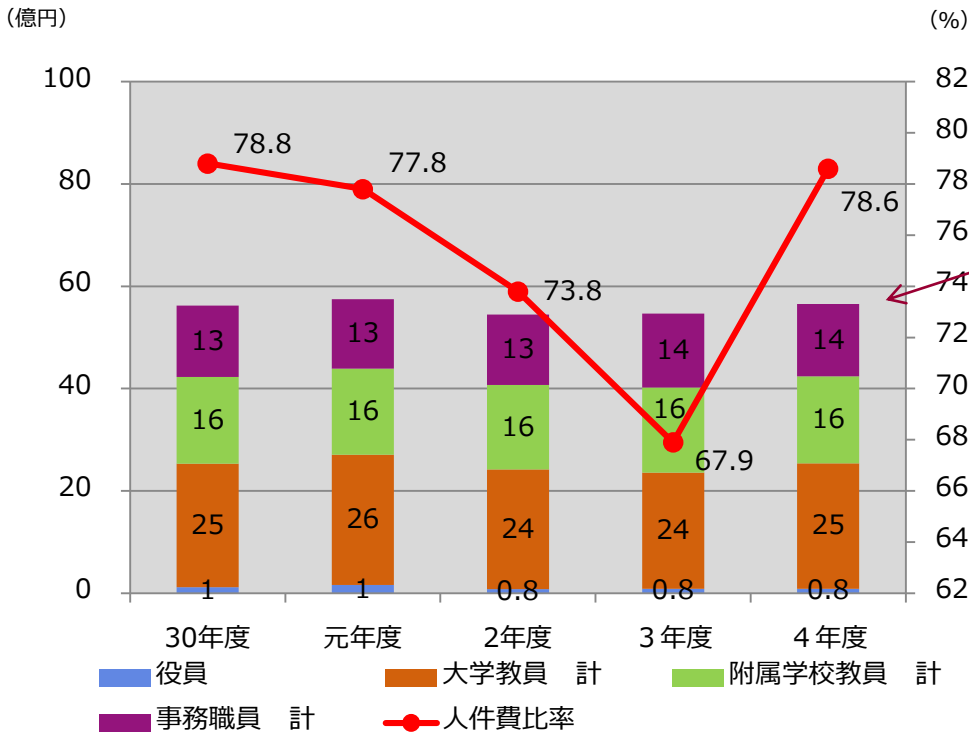
## 1. 1. 大学運営に係る経費

人件費及び管理経費（財務諸表における一般管理費）は、効率的な運営ができているかをみるための指標の一つになります。本項目では、それらの推移を示しています。

### 職種別人件費

$$\text{人件費比率} = \text{人件費} \div \text{業務費}$$

大学全体(前述の教育・研究活動に係る人件費を含む)の人件費の推移です。



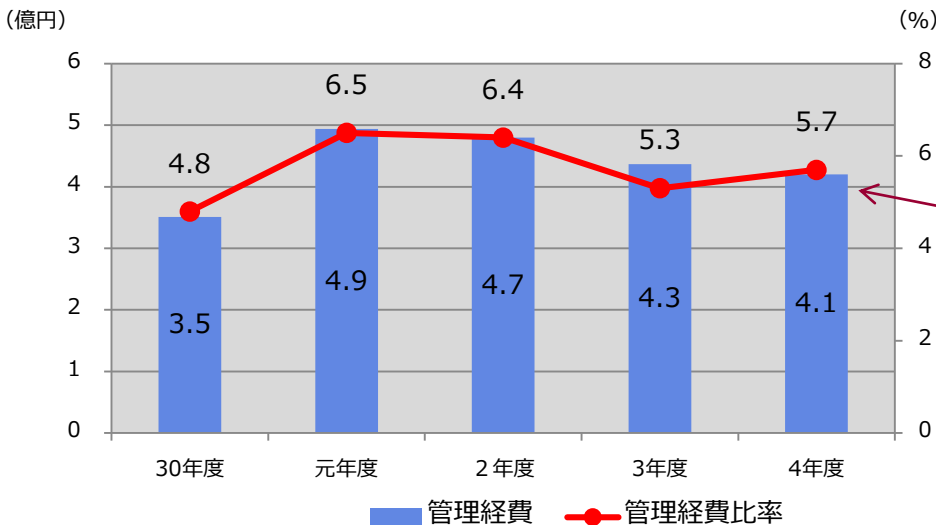
人件費が増加し、業務費が減少したため、人件費比率が前年度に比べて増加しました。

※業務費には教育経費，研究経費，教育研究支援経費，受託研究費等，人件費が含まれます（11ページ参照）。

### 管理経費

$$\text{管理経費比率} = \text{管理経費} \div \text{業務費}$$

人件費を除いた大学運営に係る経費の推移です（減価償却費など支出を伴わない費用も含まれます）。



業務費の減少に伴い、管理経費比率が前年度に比べて増加しました。

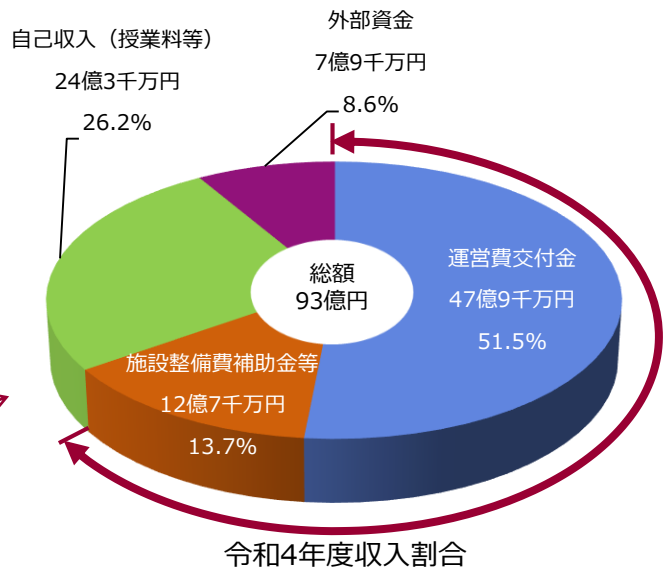
## 1. 2. 運営を支える資金

事業を行うに当たって必要な収入は、大きく分けて、運営費交付金などの国から交付される運営資金、授業料などの自己収入、受託研究などの外部資金などになります。

国等からの収入

**60億7千万円**

**(全体の65.3%)**



※運営費交付金は前年度からの繰越分を除いています。  
外部資金には科学研究費による収入も含んでいます。

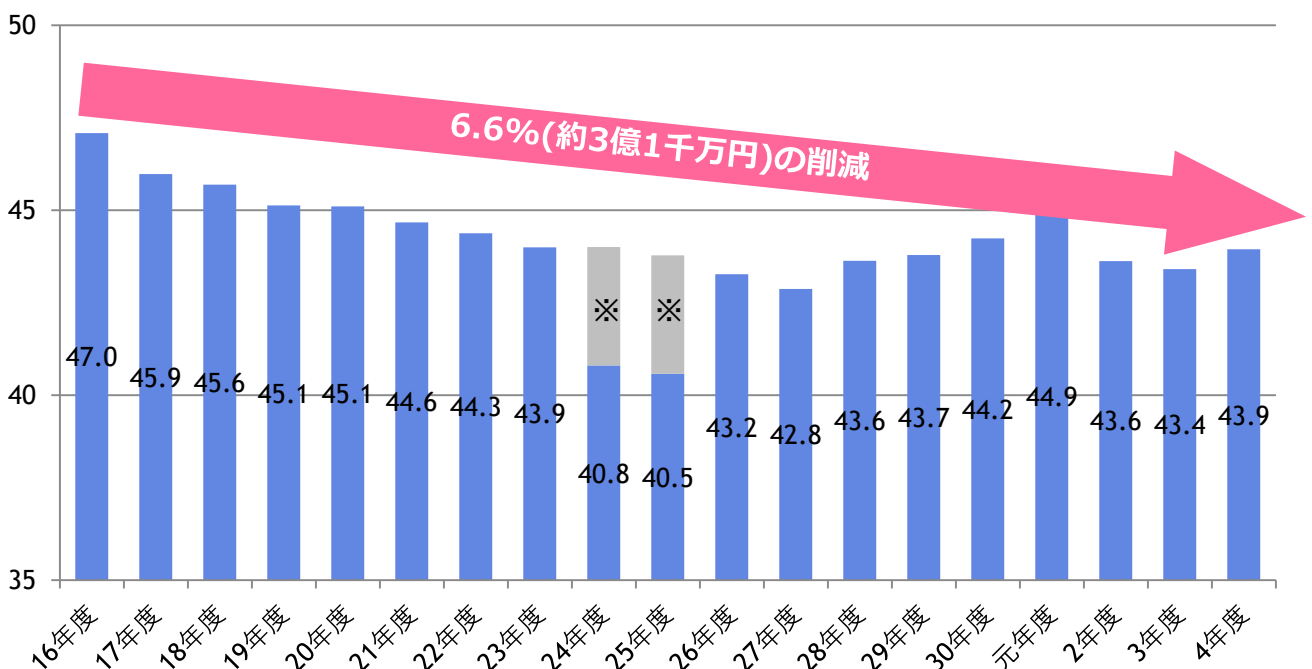
国等からの収入

運営費交付金

運営費交付金は、大学運営に充てられる「基幹運営費交付金」（平成27年度までは「一般運営費交付金」と退職手当など特殊要因に対するための「特殊要因運営費交付金」で構成されています。

基幹（一般）運営費交付金は、令和4年度は前年度より増額となりましたが、法人化初年度（平成16年度）から6.6%（約3億1千万円）減少するという厳しい経営環境に置かれており、さらなる経営努力による自己収入の増加や業務の効率化による経費の削減が求められています。

(億円) 一般運営費交付金（～平成27年度）、基幹運営費交付金（平成28年度～）の推移



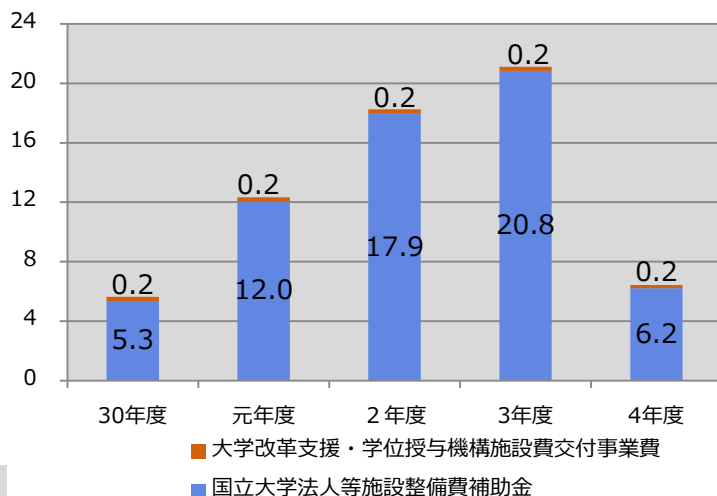
※給与改定臨時特例法に基づく給与削減分

## 施設整備費補助金等

施設整備費補助金等は、国から交付される「施設整備費補助金」と独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から交付される「施設費交付事業費」で構成されます。この補助金は大学の施設整備等の支出に限定される財源になり、整備計画に基づき、計画的に整備を行っています。

令和4年度は、音楽棟の改修と、ライフライン再生（ガス設備）を行いました。

(億円) 施設整備費補助金等収入の推移



(令和4年度主な施設整備事業)

(単位：億円)

事業名	金額
音楽棟改修	4.6
ライフライン再生（ガス設備）事業	1.6

## 補助金

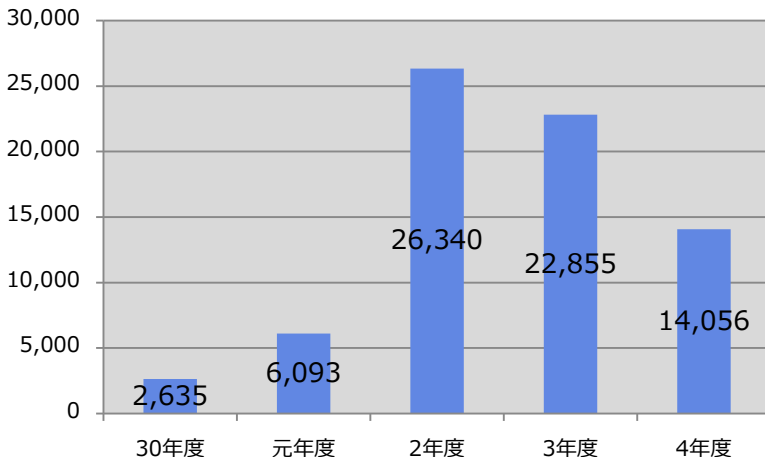
(施設整備費補助金，科学研究費を除く)

補助金は、特定の事業を行うために国又は地方公共団体から交付される収入財源です。

令和4年度は、令和3年度に引き続き入学金および授業料の減免のための「授業料減免費交付金」の交付を受けましたが、情報機器整備費補助金が減少したため、前年度に比べ減少となりました。

(万円)

補助金収入の推移



(令和4年度主な補助金事業)

(単位：万円)

補助金区分	事業名	本学配分額
授業料減免費交付金	授業料及び入学金の減免	12,924
情報機器整備費補助金	学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業	355

## 自己収入

### 学生納付金（授業料，入学科，検定料収入）

学生納付金（授業料，入学科，検定料）は本学の自己収入の中心となる収入です。

この納付金額は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」で標準額が定められており，本学はその標準額と同額となります。

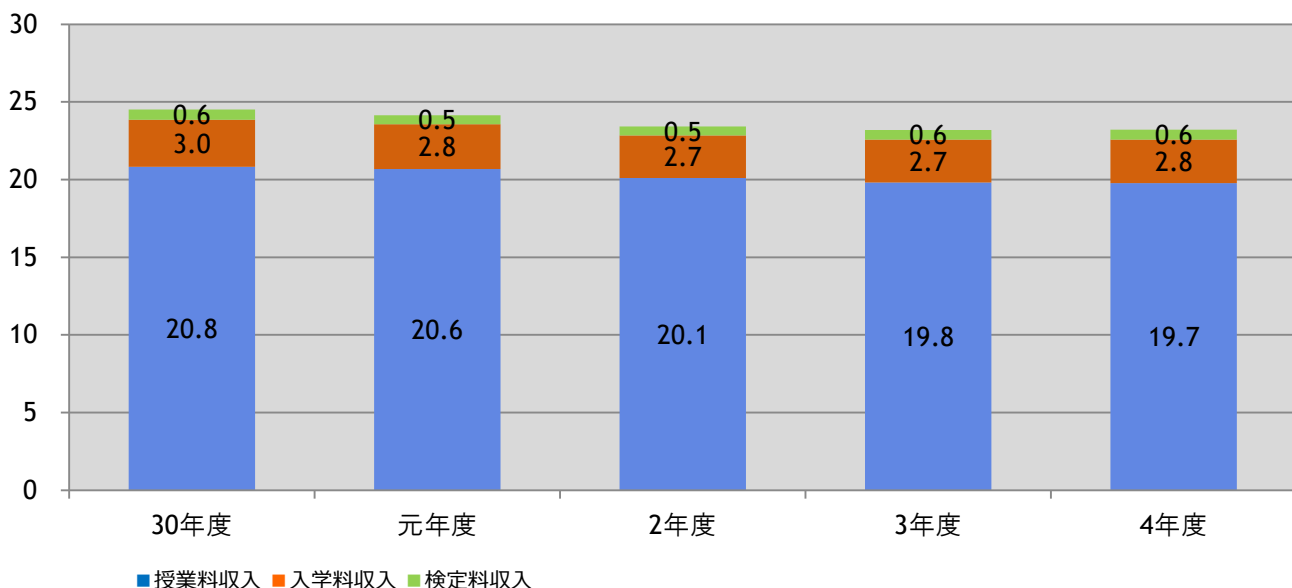
令和4年度学生納付金（年額）

区分	授業料	入学科	検定料
大学	535,800	282,000	17,000
大学院	535,800	282,000	30,000
専攻科	273,900	58,400	16,500

(単位：円)

(億円)

学生納付金収入の推移



## 外部資金による収入

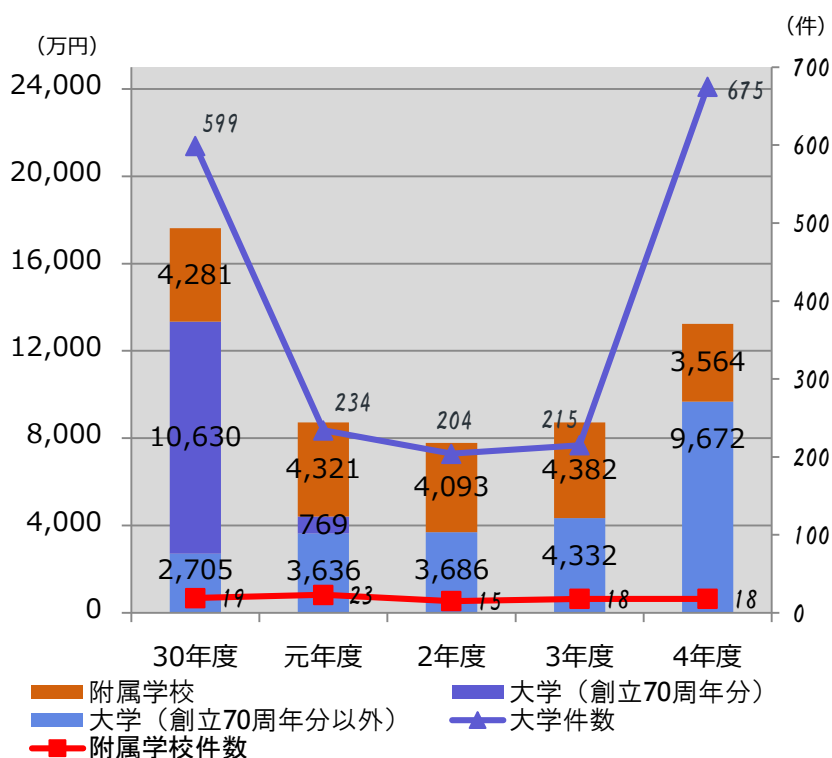
### 寄附金

寄附金は，教育・研究のためとして企業の皆さま，地域の皆さま，保護者の皆さまなどからいただいています。

令和4年度は，大学への寄附金学及び件数が増加したこともあり寄附金総額が増加しています。

今後とも，学生に対する修学支援事業等に努めていきます。

寄附金の推移



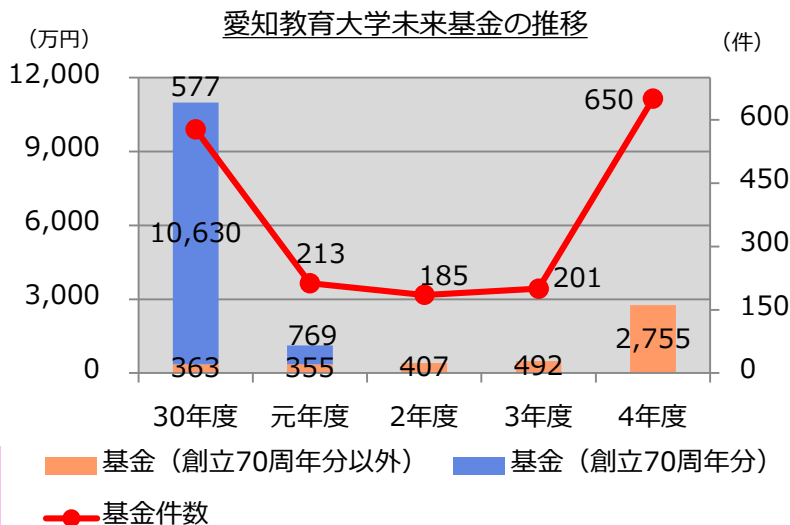


## 愛知教育大学未来基金

愛知教育大学未来基金は、「教育研究基金」と「AUE修学支援基金」からなり、「教育研究基金」は、平成17年度に創設され、課外活動等で優秀な成績を取めた学生・クラブの顕彰及び活動支援、海外の交流協定校からの留学支援、本学から海外への交流協定校への留学者の支援など、幅広く学生支援を行っております。一方「AUE修学支援基金」は平成28年度に創設され、経済的な理由で就学が困難な学生に対し支援を行っております。

### 【創基150周年記念事業寄附】

愛知教育大学未来基金の寄附メニューとして「愛知教育大学創基150周年記念事業への寄附」を設け、記念式典の開催、附属学校の子供たちによる記念音楽会の開催、記念植樹の実施、創基150周年記念パンフレットの作成などの記念事業の開催に活用してまいります。



### 【記念式典の開催】

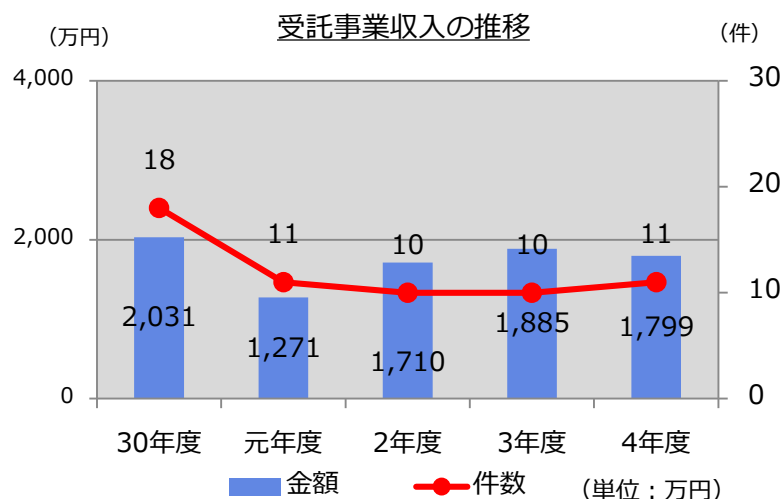
日時：令和5年11月19日（日）  
 午前：記念式典・記念講演会  
 午後：記念音楽会  
 場所：愛知教育大学 講堂



## 受託事業

受託事業は、学外からの委託を受けて行う諸活動のうち、受託研究を除くもので、これに要する経費を委託者が負担するものです。

令和4年度は主に、文部科学省や地方公共団体からの委託を受け、事業を行いました。



(令和4年度主な受託事業)

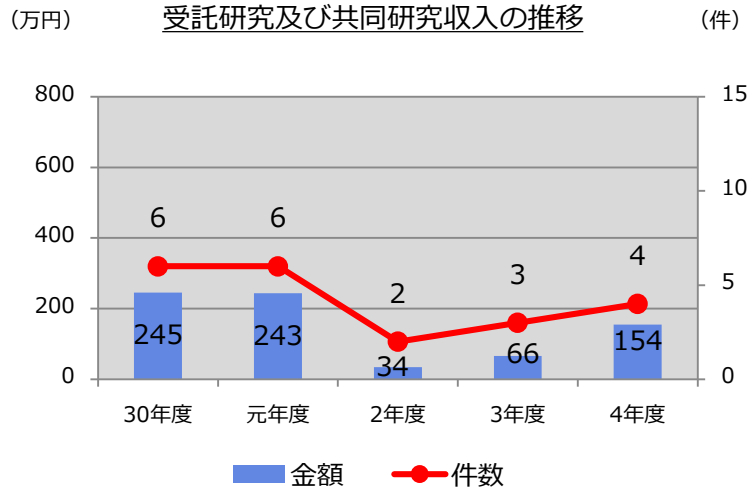
委託者	事業名	受託額
文部科学省	多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究	862
刈谷市 知立市 豊田市	外国人児童生徒のための学習支援(三市負担)	300
文部科学省	令和4年度社会教育主事講習	256

## 受託研究・共同研究

受託研究は、学外からの委託を受けて行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するものです。

また、共同研究は、学外から研究者と研究経費を受け入れ、共通の研究課題について対等の立場で共同して研究を行うものです。

令和4年度は、地方公共団体や公益財団法人からの委託を受け研究を行いました。



(令和4年度 受託研究)

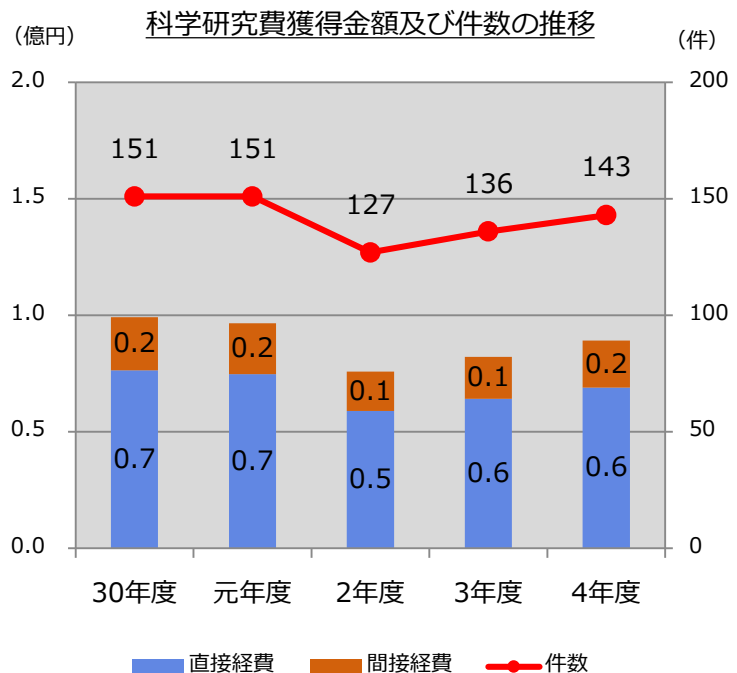
(単位: 万円)

委託者	事業名	研究者名	受託額
刈谷市	【受託研究】小堤西池における遺伝子解析	理科教育講座 渡邊 幹男 教授	60
知立市	【受託研究】知立の松並木遺伝子解析調査	理科教育講座 渡邊 幹男 教授	49
公益財団法人河川財団	【受託研究】「全国河川・水教育大学間ネットワーク」事業における河川・水教育推進業務	理科教育講座 大鹿 聖公 教授	30
豊明市	【受託研究】ナガバノイシモチソウ群落の多様性及びクローン構造の解析	理科教育講座 渡邊 幹男 教授	15

## 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業は、あらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を段階に発展させることを目的とする国の「競争的研究資金」です。

令和4年度について、令和2年度から行っているSD研修を兼ねた若手事務職員によるチェック体制をより強化して、個人面談の実施や申請書の添削を行った結果、獲得件数、獲得金額が増加しました。引き続き獲得に努めています。



(研究分担者としての受入を含む)

## 2. 令和4年度財務諸表の概要

### 2. 1. 国立大学法人の決算書類

国立大学法人は、「国立大学法人会計基準」により、財務諸表によって会計情報を明瞭に表示することとされており、毎事業年度財務諸表を作成し、文部科学大臣の承認後に公開しています。

#### ～財務諸表の体系～

##### ○貸借対照表

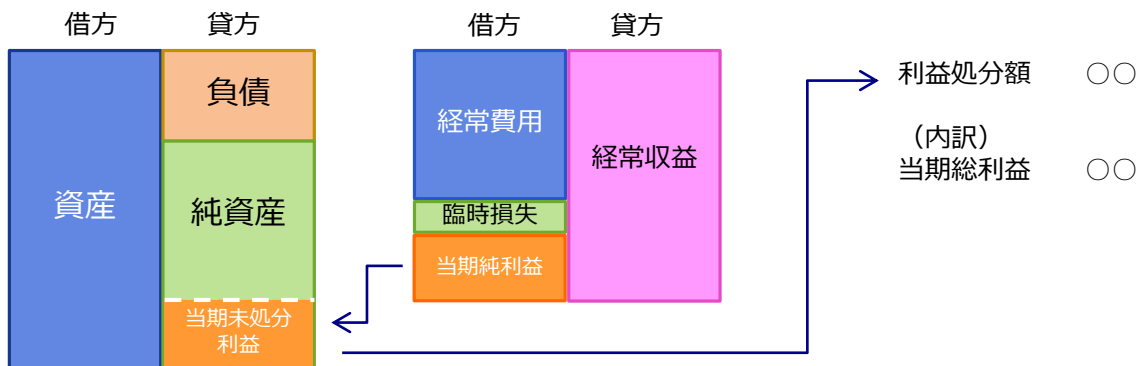
各事業年度末日（3月31日）における資産、負債及び純資産の状況を表します。

##### ○損益計算書

各事業年度（4月1日から翌年3月31日）の期間を通じた業務運営に要した費用、収益や利益の発生状況を表します。

##### ○利益の処分に関する書類

損益計算により生じた利益の処分内容を表します。



##### ○純資産変動計算書

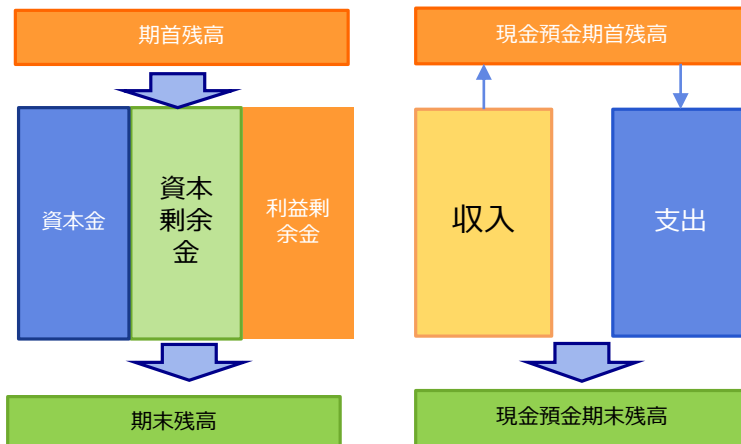
貸借対照表の「純資産」の各事業年度中の動きを表す計算書です。財政状態と運営状況の関係を表します。

##### ○キャッシュフロー計算書

各事業年度の期間を通じた現金の流れを一定の活動別に区分して表します。

##### ○附属明細書

貸借対照表及び損益計算書等の内容を補足するための書類



※業務実施コスト計算書は廃止されましたが、損益外・引当外のコストを損益計算書の欄外に「資本剰余金を減額したコスト等」として注記します。また、これらの情報と機会費用等の情報を集約した「業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト」の注記が新設されました。



## 2. 2. 貸借対照表

貸借対照表は、全ての資産、負債及び純資産を記載することにより、決算日（3月31日）における「財政状態」を明らかにすることを目的としています。

### 2. 2. 1. 資産の部

資産は、所有する金銭・土地・建物などの総称で、他にも工具器具備品や図書、有価証券等が該当します。

(単位：百万円)

資産の部			
	3年度	4年度	増△減額
<b>I 固定資産</b>	<b>50,112</b>	<b>49,717</b>	<b>△395</b>
土地	36,922	36,922	0
建物・構築物	10,502	10,282	△220
工具器具備品	417	276	△141
図書・美術品	2,097	2,105	8
長期性預金など その他の固定資産	173	131	△41
<b>II 流動資産</b>	<b>2,751</b>	<b>3,163</b>	<b>412</b>
現金及び預金	2,029	2,014	△15
有価証券など その他の流動資産	721	1,149	427
<b>資産合計</b>	<b>52,864</b>	<b>52,881</b>	<b>17</b>

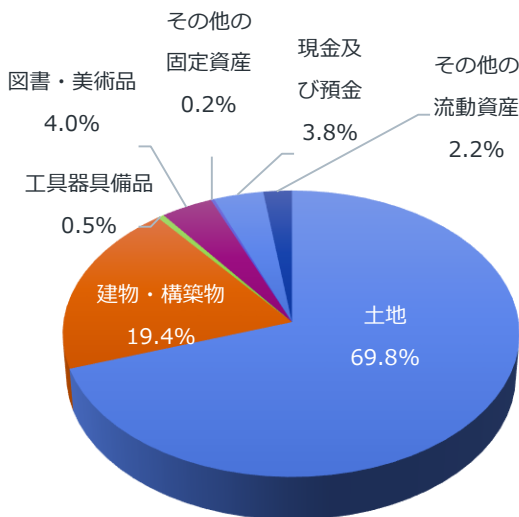
(要因)

- ・音楽棟改修事業
- ・減価償却 等

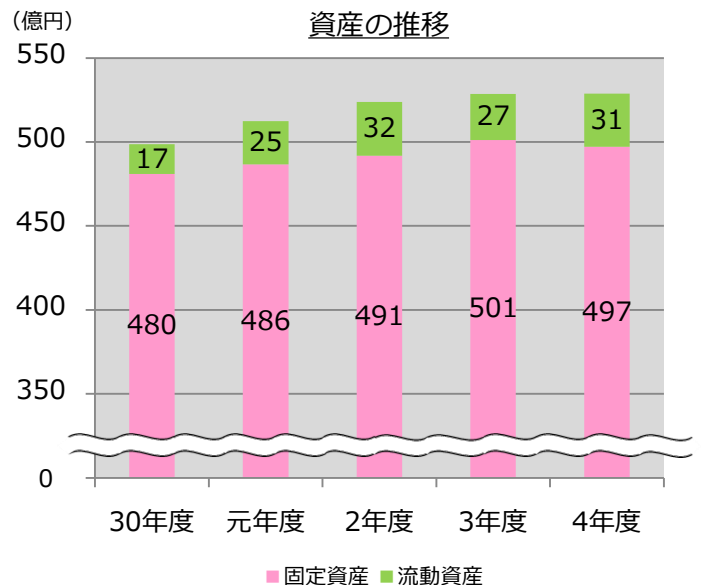
(要因)

- ・補助金等の未収入金の増加等

注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計は一致しません。  
(以下、キャッシュフロー計算書まで同じ)



令和4年度末内訳



## 2. 2. 2. 負債の部

負債は、将来一定の資産及び役務を提供しなければならない義務であり、未払金等が該当します。

(単位：百万円)

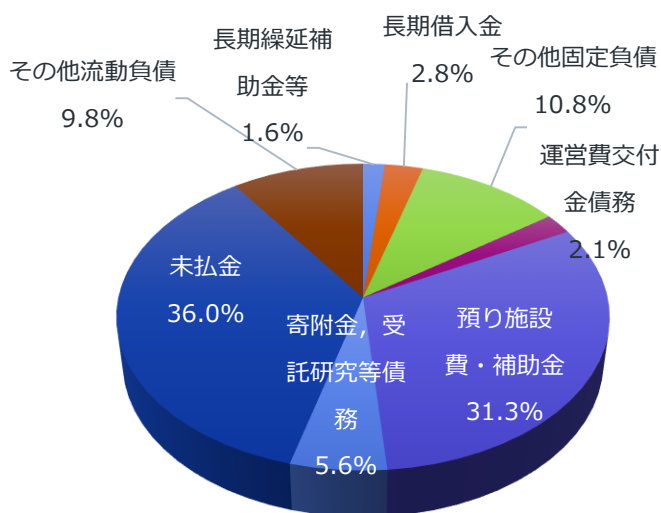
負債の部			
	3年度	4年度	増△減額
<b>I 固定負債</b>	<b>4,722</b>	<b>524</b>	<b>△4,197</b>
資産見返負債	4,135	55	△4,079
長期借入金	107	97	△9
資産除去債務など その他の固定負債	479	370	△108
<b>II 流動負債</b>	<b>2,638</b>	<b>2,922</b>	<b>284</b>
運営費交付金債務	0	73	73
預り施設費 預り補助金等	627	1,077	450
寄附金債務 前受受託研究費等	155	193	38
未払金	1,513	1,240	△273
預り金など その他の流動負債	341	337	△4
<b>負債合計</b>	<b>7,360</b>	<b>3,446</b>	<b>△3,917</b>

(要因)

・会計基準改訂にかかる資産見返処理の廃止に伴い、資産見返負債を臨時利益に振替えたことによる減少 等

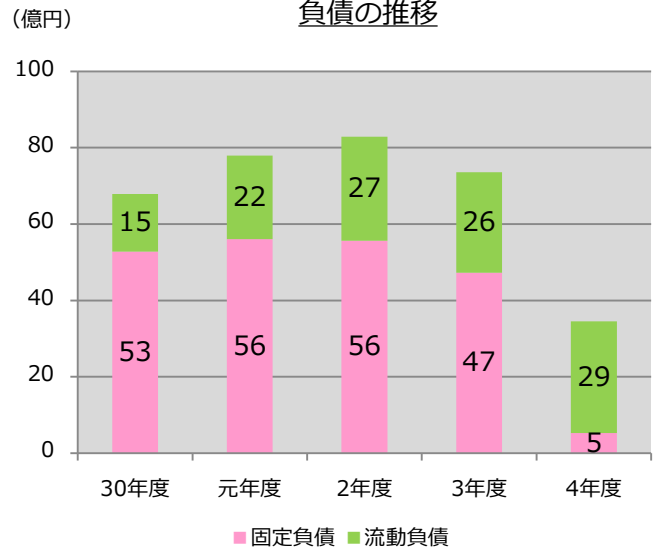
(要因)

・補助金の翌期執行予定額の増加 等



令和4年度末内訳

負債の推移



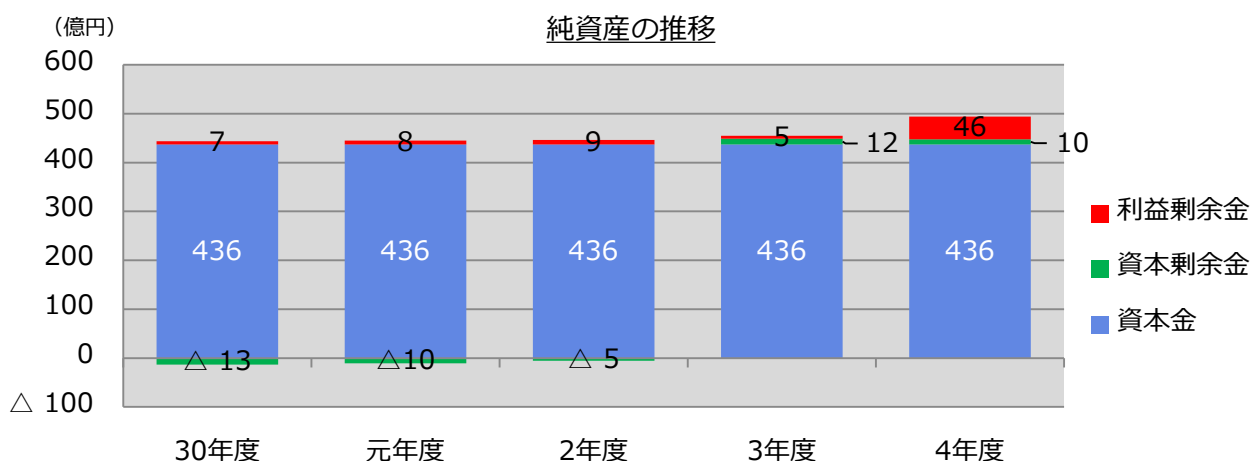
### 3. 2. 3. 純資産の部

純資産は、国立大学法人の業務を確実に実施するために国から承継された財産的基礎及び業務に関連し発生した剰余金から構成されており、資産から負債を控除した額に相当するものです。資本金・資本剰余金・利益剰余金が該当します。

(単位：百万円)

純資産の部			
	3年度	4年度	増△減額
資本金 (政府出資金)	43,693	43,693	—
資本剰余金	1,224	1,075	△149
利益剰余金	585	4,665	4,079
(うち当期総利益)	341	4,270	3,929
<b>純資産合計</b>	<b>45,504</b>	<b>49,434</b>	<b>3,930</b>

(要因) 会計基準改訂にかかる資産見返処理の廃止に伴い、資産見返負債を臨時利益へ計上したため、利益剰余金が増加



#### (資本金について)

平成16年度の法人化にあたって、国から承継された資産から承継された負債を差し引いた額を政府出資金として計上しています。資本金は100%政府出資金であり、通常は減少しません。

#### (資本剰余金について)

国から出資された資産や施設整備費補助金、目的積立金等により取得した資産のうち、国立大学法人の財産的基礎となるものと文部科学大臣の指定を受けた資産（特定資産）相当額については、「資本剰余金」として計上し、その減価償却費相当額は、「減価償却相当累計額」として資本剰余金から控除します。また、資本金に計上されている特定資産の減価償却費相当額も、減価償却相当累計額として処理されますが、令和4年度は、法人化後に取得した特定資産相当額が、法人化の際に国から出資された分を含む特定資産の減価償却相当累計額を上回ったことから、資本剰余金はプラスとなっています。

#### (利益剰余金について)

利益剰余金については、第1期～第3期中期目標・中期計画期間中より繰り越した積立金及び当期末処分利益が計上されています。R4年度は会計基準の改訂により、資産見返負債を臨時利益の資産見返負債戻入へ計上したため、利益剰余金が増加しています。

## 2. 3. 損益計算書

損益計算書は、一会計期間における「運営状況」を明らかにし、それに係る業務評価を受けることにより、効率かつ適正な運営することを目的としています。

### 2. 3. 1. 費用の部

費用の部では、教育研究の実施、物品等の購入など、国立大学法人等の業務に関連し発生する費用を表しています。その執行目的によって、教育経費、研究経費等に分けられます。

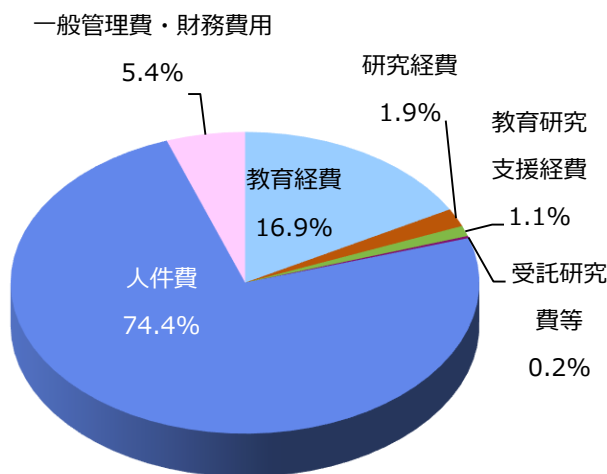
(単位：百万円)

費用の部			
	3年度	4年度	増△減額
業務費	8,271	7,356	△915
教育経費	2,336	1,316	△1,020
研究経費	177	150	△26
教育研究支援経費	125	87	△38
受託研究費等	17	17	0
(受託研究費)	0	1	0
(共同研究費)	—	—	—
(受託事業費)	17	16	△0
人件費	5,614	5,783	169
一般管理費・ 受取利息などの財務費用	440	422	△17
<b>経常費用合計</b>	<b>8,712</b>	<b>7,778</b>	<b>△933</b>
臨時損失	74	17	△56
当期総利益	341	4,270	3,929
<b>合計</b>	<b>9,128</b>	<b>12,067</b>	<b>2,938</b>

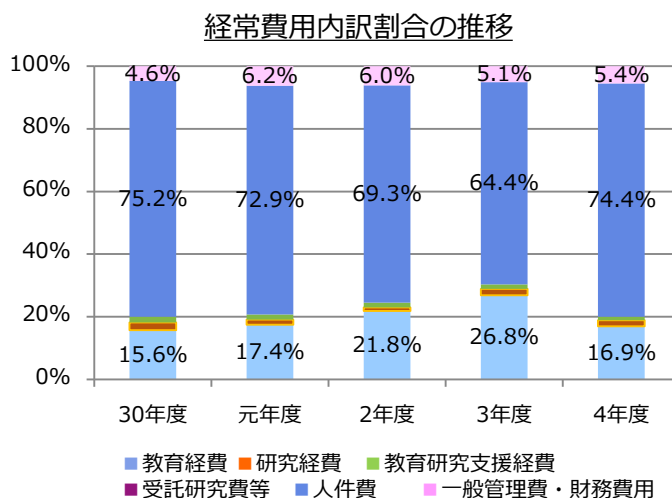
(要因)  
・建物改修事業や設備整備事業にかかる支出の減少 等

(要因)  
・退職手当支給額の増加 等

(要因)  
・建物改修事業に伴う移転費等の支出減 等



令和4年度経常費用内訳



## 2. 3. 2. 収益の部

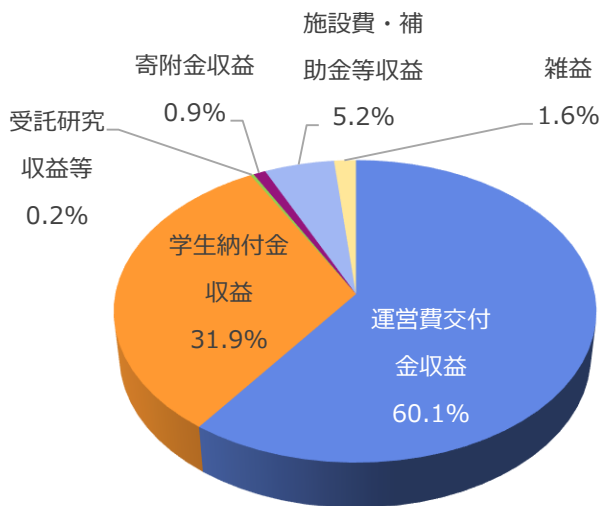
収益の部では、教育研究の実施やサービスの提供等に関連した業務により得た収益を表しています。その財源区分によって、運営費交付金収益、学生納付金収益等に分けられます。

(単位：百万円)

収益の部			
	3年度	4年度	増△減額
運営費交付金収益	4,745	4,722	△23
学生納付金収益	2,470	2,509	38
受託研究収益等	19	19	0
（受託研究収益）	0	1	0
（共同研究収益）	-	-	-
（受託事業収益）	18	17	△0
寄附金収益	61	72	11
施設費・補助金等収益	856	410	△445
（施設費収益）	674	247	△426
（補助金等収益）	182	162	△19
資産見返負債戻入	218	-	△218
財務収益	0	0	△0
雑益	122	127	5
<b>経常収益合計</b>	<b>8,493</b>	<b>7,862</b>	<b>△631</b>
臨時利益	170	4,064	3,894
目的積立金取崩額	464	140	△324
<b>合計</b>	<b>9,128</b>	<b>12,067</b>	<b>2,938</b>

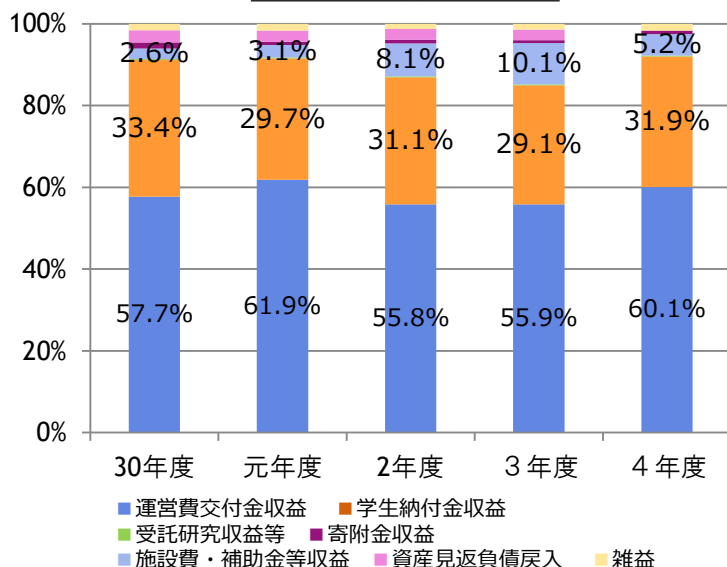
(要因)  
・ 交付額の減少に伴う執行額の減少 等

(要因)  
・ 会計基準改訂にかかる資産見返処理の廃止に伴い、資産見返負債を臨時利益に振り替えたことによる増加



令和4年度経常収益内訳

経常収益内訳割合の推移



## 2. 4. キャッシュ・フロー計算書

国立大学法人会計基準の基となる企業会計において、損益は必ずしも現金等の収支と一致せず、損益計算書上は利益があっても、現金が不足すれば倒産（黒字倒産）することがあります。

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における現金の流れに着目し、現金の創出能力・支払能力等を評価するものです。

内容は「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つに区分され、どの活動から資金を調達し、どの活動に資金が使用されているかを示しています。

(単位：百万円)

キャッシュ・フロー計算書			
	3年度	4年度	増△減額
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△661</b>	<b>269</b>	<b>931</b>
商品等の購入による支出	△2,186	△1,342	843
人件費支出	△5,547	△5,610	△63
その他の業務支出	△778	△1,171	△392
運営費交付金収入	4,657	4,796	138
学生納付金収入	2,321	2,323	1
その他の業務収入	871	1,295	423
国庫納付金の支払額	—	△20	△20
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>701</b>	<b>△154</b>	<b>△855</b>
投資的な活動に伴う支出	△5,591	△4,342	1,248
投資的な活動に伴う収入	6,292	4,188	△2,104
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△130</b>	<b>△130</b>	<b>0</b>
リース債務等の返済の関わる支出	△127	△128	△1
その他支出	△3	△2	1
資金の増減額	△91	△15	75
資金の期首残高	2,121	2,029	△91
資金の期末残高	2,029	2,014	△15

(要因)  
・建物改修事業や設備整備事業にかかる支出が昨年度に比べて減少したことによる増加 等

(要因)  
・施設費による収入の減少 等

(要因)  
・リース債務に係る支出の増加

活動区分	内容
業務活動による キャッシュ・フロー	通常の業務の実施に係る資金の状態を表示 ・原材料、商品、サービスの購入による支出、教職員の人件費支出 ・運営費交付金、国等から交付される補助金等の収入 ・教育・研究の実施による収入 など
投資活動による キャッシュ・フロー	将来に向けた運営基盤を確立するために行われる投資活動に係る資金の状態を表示 ・固定資産の取得・売却 ・施設関係の補助金収入、支出 ・受取利息 など
財務活動による キャッシュ・フロー	業務活動及び投資活動を維持するための財務活動に係る資金の状態を表示 ・資金の調達及び返済 ・支払利息 など



## 2. 5. 純資産変動計算書

貸借対照表に計上される純資産の一会計年度の変動を明らかにすることを目的として作成する計算書です。純資産を当期首残高、当期変動額及び当期末残高に区分し、それぞれの内訳を示しています。

(単位：百万円)

純資産変動計算書					
	期首残高	増加	減少	期末残高	増△減額
I 資本金 (政府出資金)	43,693	-	-	43,693	-
II 資本剰余金	1,224	420	△569	1,075	△149
固定資産の取得	-	420	-	-	420
固定資産の除売却	-	-	△1	-	△1
減価償却	-	-	△566	-	△566
資産除去債務の増加	-	-	△2	-	△2
III 利益剰余金	585	5,382	△1,303	4,665	4,079
前中期目標期間繰越積立金	101	565	△271	394	293
教育研究環境整備等積立金	104	-	△104	-	△104
積立金	38	547	△585	-	△38
当期末処分利益	341	4,270	△341	4,270	3,929
純資産合計	45,504	4,661	△731	49,434	3,930

## 2. 6. 利益の処分に関する書類 (案)

令和4年度の当期総利益は、約42億7千万円になりました。このうち、約3億2千1百万円については、現金の裏付けがあるものとして、文部科学大臣に繰越承認申請を行い、承認後、目的積立金（教育研究環境整備等積立金）として、教育研究の質の向上などに活用します。

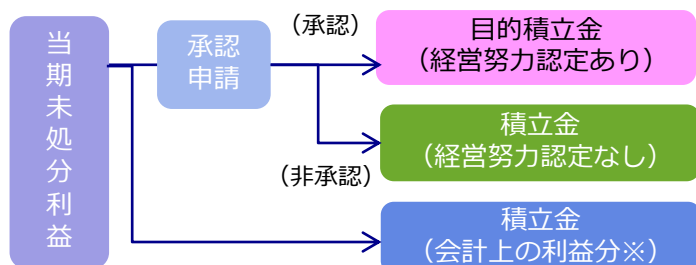
(単位：円)

利益の処分に関する書類 (案)		
I 当期末処分利益		4,270,789,481
当期総利益	4,270,789,481	
II 利益処分額		
積立金	3,949,135,111	
教育研究環境整備等積立金	321,654,370	4,270,789,481

### 【国立大学の利益処分】

各期末において未処分利益が発生した場合、経営努力の結果として文部科学大臣から認定された金額については「目的積立金」として、認定されなかった額については「積立金」として翌期に繰り越します。

本学では、目的積立金を「教育研究環境整備積立金」と名称を付し、中期計画に定める教育研究の質の向上などを目的として活用しています。



※現金の裏付けがない利益。